



子育ても介護も、周りの力を借りればよい。
気張らないから続けられた仕事人生30年。

矢久保 純子 Junko Yakubo

学務部入試課長

1958年茨城県生まれ。東海大学文学部広報学科卒業。1981年筑波大学に就職し、1984年結婚を機に信州大学に異動。医学部附属病院、総務部研究協力課、研究推進部産学官地域連携課、工学部副学部長補佐、学務部大学院室室長等を歴任後、2014年より現職。

My Life Story

実家は茨城県。大学卒業後、筑波大学に就職し、結婚を期に信州大学へ異動。医学部、工学部、産学連携の研究協力課、大学院学務課などを経て、現在は入試課課長。夫は市役所勤務、長男は千曲市で教師。同居の義父の介護をしながら仕事を続ける。趣味はサッカー観戦、旅行など。



家族で初詣（北向観音）に行った際に、義父、長男と。

最近、夢中になっている松本「山雅」FC。スタジアムでの応援は胸が踊る。



松本「山雅」FC後援会で憧れの町監督と。

周りのおかげ、健康のおかげ

あと4年で定年。振り返ってみれば30年以上もここにいるわけです。ここまで続けて来られたのは、周りに恵まれたことと、健康でいられたことのお陰ですね。家族の健康に恵まれたこともありがたかったな、と思います。

私は特別キャリアウーマンを目指したわけではありませんが、いろいろなところに自分の居場所があったほうがバランスがとれるタイプなんだと思います。主婦だけ、とか仕事だけ、という生活であったら、ダメになっていたんじゃないでしょうか。

昔は育児休業制度などもなく、産休だけでしたが、その時はそんなに苦労とも思わずにすぐに仕事に復帰しました。夫の両親と同居だったので、子どもを見てもらえるという利点もあったし、その頃の職場は、残業も持ち帰り仕事もなかったのがラッキーでした。

女性はがんばりすぎている

いくつかの節目はあったかもしれませんが、私の中には「辞める」という選択肢はなかったですね。女性は、子育ても家庭のことも全部自分がやらなければ、と頑張りすぎてる人が多いと思

います。全てを自分だけが抱え込む必要はないし、大変だったら周りに発信すればいい。上手に周りの力を求めて、自分にもご褒美をあげながらやればいいのです。

子どもはもう社会人になり、いま義父が要介護になっていますが、デイサービスやヘルパーさんにお任せしながら、仕事を続けています。仕事のときはしっかり仕事して、家に帰ったら主婦。子どもがいたときはお母さんの顔も使い分ける。そのどれもが逃げ道になるし、ストレス解消になり、それでバランスがとれる。私にとっては、いくつもの居場所があることがとても大切なことですね。

松本「山雅」FCの応援で自己燃焼中!

毎朝、夕ご飯の準備をして出かけます。こうしておけば、たとえ自分が残業になったり、飲み会になったりしても安心ですから。洗濯は夜やっちゃいます。サイクルさえ作ってしまえば、そんなに難しいことではないです。

また、出産後、ある職にずいぶん長くいたので、このまま異動も昇進もなく私はここで終わるのかな、とあきらめかけていたら、課長が「今回は別の人が異動になったけど、来年は考えるからね」とわざわざ電話をくださった。その時、すごくうれしくて、「私を見ていて

くれる人がいる。じゃあがんばろう」と思えたんです。その時のことは今でも覚えています。人間関係って大事なな、と思いますね。

今の楽しみはサッカー。地元の松本「山雅」FCの応援にずっとアルウィンに通っています。はまっちゃいましたね～。会場に行って応援している自分がすごく楽しいんです。もう行く前から歌っていますからね。定年になってからスケジュールのない毎日をどうしていくんだろう、と思いますが、友達とワールドカップにも行ってみたいね、なんて話しています。

